

歩程 約**2時間45分**

岩場コースで、港をさらに行った堤防の所が海岸コース。海岸コースは岩場コースの南側（海側）を歩くの

ここから左に民家の間を入るのが岩場コースで、港をさらに行った堤防の所が海岸コース。海岸コースは岩場コースの南側（海側）を歩くの

コースは、伊豆七島が一望できる海岸線を歩く岩場コースと静かな山道コース、さらに細間の段までの新ルート・海岸コース（一部完成、H8年3月に全線開通予定）があるので、須崎を基点にして岩場コースあるいは海岸コースを経て爪木崎へ行き、山道コースを経て須崎へ戻るコースがいい。

先の入江から、従来は岩礁地帯を歩くコースであったが、足場が悪いため左へ迂回路がある。亜熱帯植物な

分岐まで戻り海岸線を行く。少し

簡易舗装された道を上っていくと左手にキヌサヤの畑があり、桜や椿のトンネルもある。道が下りになって海岸線へ出てコースほぼ中間の細間の段の展望台へ下る。途中小さな石仏が淋しげにたたずんでいる。細間の段は、太田道灌が江戸城の石垣を築くために石材を切り出した場所。風や波に浸蝕されているが、切り出した跡があちこちに見られる。岸壁に立つと、利島、新島などの伊豆七島が洋上に浮び、沖には大型船がしきりに行き交うのが望める。

下田港の東にポコッと突き出た半島が須崎半島である。その南端の漁港、須崎から水仙の咲く爪木崎まで2・8kmのハイキングコースが須崎遊歩道。道幅1.1・5m、整備のいきとどいたコースには、6ヶ所の休憩所、案内標識、解説板、距離標識が設置されているので安心して歩ける。

石段を上るとエンマ様のお堂と、その上の石室に33観音が祀られている。この庚申堂のお祭りは旧暦のお盆の16日で、エンマ様が悪人共を取調べる11体の掛軸が1年に、この日だけ公開される。

下田

21

伊豆七島を眺めながら爪木崎へ  
**須崎遊歩道**

（一般向・家族向）

でそれだけ海の展望がよい。

ここでは岩場コースを行く。小白から民家の間を抜け急坂を上ると庚申堂。

申堂。

どが繁るうっそうとした林の中を行く。枝道もあるが案内標がしつかりしているので迷わず歩ける。まもなく灯明場跡。文禄4年（1595）、下田奉行戸田三郎右衛門が番所を設け、合せて船舶の安全航行のため灯明をともした所。今では場台のみがあるにすぎないが、いわば日本の灯台の始まりといえる。

田ノ尻へ来ると山道コースのT字路。（帰りはここから須崎に戻る）。

爪木崎周辺は自然公園となっていて、遊歩道が整備されている。見どころは白亜の無人灯台、玄武岩の美しい俵磯、亜熱帯植物園。12月から2月の野水仙の群落、夏の天草干し、ハマユウの群落、秋はイソギク、ツワブキの群生、そして昭和天皇・皇后陛下の御歌の碑など。周辺の詳しい案内は、②爪木崎自然公園・グリーンエリアを参照下さい。

帰りは田ノ尻まで戻り、沢に沿って笹原の山道へと入る。桜や椿も多く見られ峠らしき所を越えると、あとは畑の中の下り。広い庭のある幼稚園の脇を通るとT字路。正面に小さな鳥居。左へ曲り部落の中の坂道を下る。途中、伊豆横道33観音の21番礼所観音寺に詣でていこう。須崎バス停まではもう近い。時間のある人は、このまま右側の海岸づたいにエリカの咲く恵比寿島自然公園まで行ってみよう。

日本開国の歴史、黒船とお吉の物語りをたずねて

**伊豆下田名所めぐり遊覧バス**

予約制

毎日運転

- 黒船Aコース 所要時間 2時間20分
- 黒船Bコース 所要時間 2時間50分
- すいせんAコース 所要時間 2時間50分
- すいせんBコース 所要時間 2時間50分

6月10日～7月10日の間  
あじさいコース 所要時間 2時間50分

伊豆下田バス ☎ <0558>22-2567

伊豆七島の展望と  
水仙の香りに包まれた

**爪木崎レストハウス**

- 1階 食堂・客室80席  
郷土特選お土産コーナー
- 2階 休憩所（20名様）

☎ <0558> 22-4644  
☎ <0558> 22-4339

この目が伊豆下田名所めぐりの乗車証です

# 21 須崎遊歩道

◆お問い合わせ先  
 下田市商工観光課 ☎ 0558-22-221  
 下田市観光協会 ☎ 0558-22-153

## ■コースタイム(参考)■

